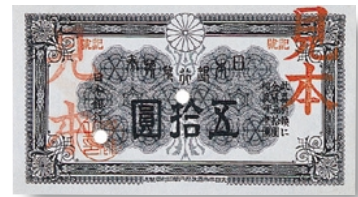


発行されなかった日本銀行券

製 造後の情勢等の変化により、発行されるに至らなかった日本銀行券があります。ここでは、その中のいくつかを紹介します。

ま ずは、1927年（昭和2年）の金融恐慌時に緊急製造された「甲五十円券」（裏白五十円券）です。この銀行券は、「乙二百円券」（裏白二百円券）とほぼ同時に、極めて短期間に製造されたもので、「乙二百円券」と同様、裏面には何も印刷されていませんでした。大蔵省は、緊急事態が終息すれば回収する方針

の下、同じ日にこれらの発行の告示を行いました。しかし、「甲五十円券」の発行予定日より1日早く発行された「乙二百円券」や一連の緊急措置によって、金融恐慌が鎮静化に向かったことから、用意していた「甲五十円券」は結果的に発行されませんでした。



甲五十円券

次 の未発行銀行券は、第二次大戦末期から終戦直後（1945年〈昭和20年〉）にかけて緊急準備用として製造された「は十円券」、「い五百円券」、「い千円券」です。もっとも、これらと同じ用途で、少し前（1944年〈昭和19年〉）に製造された「ろ十円券」および「ろ百円券」は、印刷様式を簡略化したものでしたが発行されました。しかし、1945年（昭和20年）に製造された「は十円券」、「い五百円券」、「い千円券」は、出来栄が優れず銀行券として適当でないという理由から、告示が出ないまま未発行に終わりました。

な お、「は十円券」については、偶然印刷工場を視察した大蔵大臣が印刷中の銀行券を見て、従前の十円券よりも小型で、あまりに貧弱な銀行券であっ

たため、かえってインフレ心理を煽り、日本の国力の衰退を大衆に印象づける恐れがあると判断して、その告示と発行を取り止めたとされています。



は十円券



い五百円券



い千円券

続 いて、1946年（昭和21年）に製造された「A千円券」です。この銀行券は、1945年（昭和20年）8月発行の甲千円券の図柄（日本武尊と建部神社）に新円標識（天平雲と桜花）を追加し、刷色を変えることでGHQ（連合国最高司令部）に製造に関する許可申請を行い、その承認を得ましたが、本券の発行によるインフレーションの刺激が懸念された

ことや券面に兌換券表示が残っていたことから発行が見送られ、大蔵省の発行告示もありませんまま未発行に終わりました。



A千円券